

第11回 自然免疫シンポジウム 『アンチエイジングと自然免疫』

日 時：令和5年 3月10日(金) 13:00～17:45 (12:00受付開始)

場 所：AP品川 Fルーム (東京都港区港南1-6-31 品川東急ビル8F)

参加費：無料 会場定員100名：申込先着順

※講演は後日オンデマンド配信を予定

プ ロ グ ラ ム

13:00～13:20 開会挨拶 (予定)

自然免疫制御技術研究組合 代表理事 杉 源一郎
経済産業省 商務情報政策局 生物化学産業課
一般財団法人バイオインダストリー協会
一般財団法人四国産業・技術振興センター

13:20～16:20 講演 (前半の部) 座長：河内 千恵 (自然免疫制御技術研究組合)

(13:20～14:40) 「Paneth細胞・ α ディフェンシンによる
自然免疫機能を介した腸内細菌叢制御」

中村 公則 氏 (北海道大学大学院 准教授)

14:40～15:00 休憩

(15:00～16:20) 「アンチエイジングにおける免疫の役割」

辻 直樹 氏 (医療法人社団医献会 辻クリニック 院長)

16:20～17:40 講演 (後半の部) 座長：長岡 武馬 (自然免疫制御技術研究組合)

(16:20～17:00) 「自然治癒力を高める機能性糖脂質の開発」

小田 真隆 (自然免疫制御技術研究組合 特任研究員)

(17:00～17:40) 「マクロファージの抗老化ポテンシャル」

稲川 裕之 (自然免疫制御技術研究組合 研究開発本部長)

17:40～17:45 閉会挨拶

万一、政府・東京都等から開催中止要請があった場合には、
本組合が開催の可否等を判断し、その旨を皆さまにご連絡させていただきます。

主催 自然免疫制御技術研究組合

後援 経済産業省、香川県、(国研)科学技術振興機構、(公財)北海道科学技術総合振興センター、
(予定) (国研)農研機構生研支援センター、新潟薬科大学、(一財)バイオインダストリー協会、(公財)かがわ産業支援財団、
(一財)四国産業・技術振興センター、四国健康支援食品普及促進協議会、日本バイオ治療法学会、
統合医療機能性食品国際学会

◆問い合わせ先◆

自然免疫制御技術研究組合(中本・細川・川西) TEL:(087)813-9201 FAX:(087)813-9203

講演者紹介

中村 公則 氏

北海道大学大学院
先端生命科学研究院
自然免疫研究室
准教授



1996年 北海道医療大学歯学部卒業
2000年 歯学博士(北海道医療大学)取得
2000年-2009年
札幌医科大学 医学部 分子医学研究部門
2009年-2013年
北海道大学大学院先端生命科学研究院
自然免疫研究室 助教
2013年-現在
北海道大学大学院 先端生命科学研究院
自然免疫研究室 准教授
自然免疫を起点とする腸管粘膜免疫と腸内微生物の
共生制御、疾患発症機序について研究。

辻 直樹 氏

医療法人社団医献会
辻クリニック 院長



独協医科大学卒業後、東京女子医科大学病院救命救急センターを経て、同病院膠原病リウマチ痛風センター整形外科、同病院東医療センター整形外科にてリウマチ科、整形外科、手の外科、スポーツ整形外科を経験。
現在、東京四ツ谷にて医療法人社団医献会 辻クリニックを開業。診療科目は「エイジングマネージメント」「水素治療」を行う。
また、水素治療に関しては、水素の抗酸化作用と抗炎症作用に注目し、アンチエイジング／予防治療への利用と、水素を使った鎮痛治療(ペインクリニック)を行っている。
2015年に「一般社団法人 臨床水素治療研究会」を立ち上げ、水素の臨床利用について研究を重ねている。

小田 真隆

自然免疫制御技術研究組合
特任研究員



徳島文理大学薬学部薬学研究科にて博士(薬学)を2005年に取得後、徳島文理大学薬学部微生物学教室にて、助手、助教、講師を経て、2013年より新潟大学大学院医歯学総合研究 微生物感染症学分野 准教授、2016年より京都薬科大学薬学部 微生物感染制御学分野 教授。現在は自然免疫制御技術研究組合 特任研究員、株式会社ル・シェール 研究開発部 部長を兼務。自然治癒力、すなわち自己免疫力を高めることにより社会問題となっている薬剤耐性菌やガンを克服できないかと考え、マイコバクテリウム属やコリネバクテリウム属に注目し、約四半世紀、免疫賦活剤(免疫ビタミン)の開発研究を続けている。

稲川 裕之

自然免疫制御技術研究組合
研究開発本部長



薬学博士、免疫学者。埼玉大学工学部卒業。水産大学校勤務を経て、現在は新潟薬科大学健康・自立総合研究機構客員教授。自然免疫制御技術研究組合研究本部長、NPO法人自然免疫ネットワーク理事を兼務。比較免疫学的研究視点ですべての生物の健康に興味を持ち、難治性疾患予防・治療の研究を、食細胞を基軸に35年間続けている。また、グラム陰性菌のLPSが極めて有用なことを30年前に見出し、以来LPSの基礎と実用化について研究を展開している。著書に「LPSの秘密」「LPSの美肌力」(ともにニュートリエントライブラリー)などがある。